

令和3年度 1学年「特別講座」授業報告

◎ 4月15日(水)

「オリエンテーション」

担 当:本校教員

- ◇Humanとは？ Humanityとは？
- ◇どんなことをするか？
- ◇対人ヒューマンサービスの専門技術職に要求される能力、資質について
- ◇受講するにあたっての留意事項、特別講座の計画、内容について
- ◇現在の進路希望について

《生徒の意気込み》

この総合ヒューマン類型の特別講座を受けて、どんなことをするのか分かりました。まだ大学について分からないことがたくさんあるので、大学の施設見学や体験学習を通して学んでいこうと思います。私は積極性・気配り・明るさのどれも欠けているので、この1年で少しずつ身に付けていこうと思います。そのために授業では積極的に意見を出したり発表したりしようと思います。また、バスや電車では高齢者の方に席を譲ったり、友だちや家族が困っていたら助けたりしようと思います。入学前は幼稚園教諭になりたいと思っていましたが、高校に入学していろいろ考える時間ができ、看護師という選択肢も出てきました。これからのヒューマンの授業でいろいろな職業の方の話を聞いて、それを参考にして考えていこうと思います。これから将来いろいろな年代の方の言葉を理解できるようにたくさんの本を読んで、分からない言葉は調べるなどして語彙力をつけていこうと思います。

これからの3年間普通の授業を受けて、更に総合ヒューマンの授業も受けて忙しくなることもあると思いますが、自分が進むと決めた道は最後まであきらめずにチャレンジしたいと思います。高校は義務教育ではないので、中学校までの指示に従いながら動くのではなく、自分で考えて行動に移すということをしていきたいと思います。高校のうちから将来なりたい職業についてより深くピンポイントに学べる機会はめったにないことだと思うので1回1回の授業を大切に、得たことを自分の成長につなげていきたいと思います。

私のこれからの意気込みは“将来へ繋がる階段を1歩ずつ登る”ということです。伊丹西高校の顔とされている総合ヒューマン類型に合格することができ、入学式からすでに1週間が経ちました。新しい環境にも慣れ、授業も始まりました。15日の総合ヒューマン類型特別講座で28人全員が集まった時、1人1人から緊張感を感じました。それと同時に楽しい気持ちも湧いてきました。年間の行事予定を見た時、大学見学に行き実際に体験できることを知り、ますます楽しみになりました。毎日過ごしていくうちに勉強のハードルも上がり、部活も忙しくなっていきます。勉強と部活動を両立させ、3年後に希望の進路に進めるように頑張っていきたいです。

私は将来養護教諭になりたいと考えています。そのきっかけは、私が精神的苦痛を抱えている時期に支えてくださった養護教諭の方々への存在です。私のような生徒も多かったのですが、その生徒1人1人としっかり向き合ってくれて、いつも優しく寄り添ってくれました。そんな姿を見て憧れをもち、「私も、私と同じように苦しんでいる生徒を支えたい。こんな先生になりたい」と、強く思いました。生徒を支えるだけでなく、生徒が自分自身を変えるきっかけとなる存在になりたいです。この思いは今でも変わることなく、強く持ち続けています。教育分野に携わる者としての責任や子どもとの接し方などについて学びたいと思っているので、特別講義の貴重な体験実習1つ1つを大切に、積極的に取り組んでいきたいです。専門講師の方々による特別講義や赤ちゃん先生などの実習を通し、教育についての知識や基礎を学び、学んだことを将来の夢を叶えるための一歩として活かしていきたいです。

◎ 4月22日(木)

「福祉の仕事について」

担 当: 甲子園短期大学

高野 恵子先生

◇福祉って何？

◇福祉の仕事について

◇福祉に関わる資格について

◇介護福祉士について

《講義の様子》



《生徒の感想》

「福祉」というと「介護」のイメージがありましたが、電車やバスが時間通りに動くこと、机や椅子が準備されていることも福祉だと言われました。私達は椅子や机、バスなどの福祉がなくなると大変不便になることが分かりました。高齢者は年をとるにつれて様々な機能が低下していくので、マイナスなイメージをもっていました。しかし、高齢者は私達より多くのことを経験しています。確かにその通りだと思いました。高齢者の心の変化に対応することが介護福祉の大変なところだと、私は思います。円熟型の人はとてもいいのですが、この状態を保つように接していかなければならないし、逆に「情けない」と思っている人達には、それは違うと示していかなければなりません。心の変化にも体にも寄り添い続けていく仕事は、日々の変化に少しでも気付く力が重要なことがわかりました。

私はもともと福祉の仕事には興味はありましたが、実際どんな仕事をしているのかわかっていませんでした。しかし、今回の講義を通して改めてとても素敵な仕事だと感じました。また、これからは誰もが福祉の気持ちを持つことが大切で、誰もが生き生きと暮らしていけるような社会をつくるために私自身にできることを探して、少しずつでも福祉が充実した社会をつくっていきたくて強く感じました。そして、福祉を必要としている方々の気持ちに寄り添い支えてあげられるような大人になりたいと改めて思いました。

今回の特別講座で福祉の意味は、お年寄りの方だけでなく、子どもや障がい者その他生活困窮者等が幸せに生きられる社会をつくることだと、初めて知りました。福祉はお年寄りの方の介護のイメージがあったので、今回の授業で福祉の印象が変わりました。私は介護福祉士になりたいという夢があり、高野先生がおっしゃっていることにとっても興味深いものがありました。それは「介護福祉士の仕事のメリットは自分の生きがいになる」です。介護という仕事は大変でありながら職業ですが、自分の生きがいと言えることはすごいことだと思いましたし、私も先生のような人になりたいと思いました。もう1つ印象に残っていることは、「介護福祉士は生活と命を守る」という言葉です。福祉の仕事にはこの言葉が最も大切なことだと思いました。

◎ 5月6日(木)

「保育の仕事について」

担当: 甲子園短期大学
千原 智美先生

◇保育とは

◇保育の仕事について

《講義の様子》



《生徒の感想》

将来なりたいと思っている職業の貴重な話を聞くことができ、とても良かったです。印象に残っているのは、絵本の読み聞かせです。抑揚をつける場面や、本の表紙・裏表紙を見せる理由などがわかりました。また、保育士は笑顔が極めて大事だということがわかりました。この職業は笑顔で子どもに接しているのに、仮にマスクをしていても笑っていることが子どもにわかってもらえないといけません。また、先生の話聞いて、子どもにとっての「遊び」がどれだけ重要かということがわかりました。保育士という職業は子ども1人1人の成長に関わる仕事なので、子どもに負けない体力はや、子どもの小さな変化にも気付く力、そして何より笑顔が必要だということがわかりました。この授業で更に保育士の魅力を知ることができました。

私の将来の夢である保育士の内容だったので、保育の仕事について深く知ることができ、保育士にとって大切なことなど多くのことを学ぶことができました。保育を行う場所や年齢などは知っていましたが、教育保育の国の基準や、所管が違うことを知りました。保育の仕事の内容では、遊びを通して行うということが印象に残りました。私が保育所に通っていた時も、高校のように勉強して学ぶのではなく、友達と遊び会話をすることなど体験を通して学んできたことを思い出しました。そこで必要となるのが、子ども自ら考えられ、子ども達が体験を通して学ぶことができる環境が大切だということがわかりました。保育士に求められるコミュニケーション力などを、このヒューマンの授業を通して身に付けていきたいと思いました。

私は保育士を目指しているので、今回の講義を楽しみにしていました。今回の講義で一番心に残った言葉があります。それは「保育士に求められているものは、知りたい！やってみたい！と思うこと、保育に関する知識や技術を学ぼうとする意識が大事で、子どもから好かれる人になること」ということです。私が保育士を目指した理由は、好きだった保育士さんがいて、この人みたいになりたいと思ったことがきっかけでした。その保育士さんはみんなから愛され、頼られている人でした。そして、トライやるウィークで保育所に行った時にも担当の先生が園児にとっても好かれており、その姿を見て幼児の時に戻ったかのように憧れをもちました。私は保育士にとって重要なピアノもやっておらず、コミュニケーション力もまだまだで不安ばかりですが、憧れていた保育士さんになるためにも、知りたい、やってみたいなどの好奇心を忘れずに、子どもと積極的に関わっていく保育士になりたいです。

◎ 5月27日(木)

「看護・医療の仕事について」

担 当: 大手前大学 国際看護学部

新型コロナウイルスのため、中止

◎ 6月17日(木)

「高齢者について」

担 当: 関西保育福祉専門学校

中嶋 昭典先生

◇老人介護施設の種類について

◇高齢者の症状について

◇介護の種類

《講義の様子》



《生徒の感想》

今回講義をしてくださった中嶋先生はとても経験豊富な方だと思いました。いろいろな経験をされてきたからこそ、話せるものがあるのではないかと思います。説明をしている時にも、自分の現場での経験を話してくださり、声が大きくハキハキしているのでもわかりやすく想像しやすかったです。お年寄りが脱水を起こしやすい理由は、お手洗いにいく回数が増えるから水を飲まないという原因があることを初めて知りました。DVDで見た介護福祉士さんは介護をしている時も、お年寄りとコミュニケーションをとりながら、周りのことも見ることができていて、とても尊敬できる介護福祉士さんだと思いました。

今回の講義では家庭科の授業で習ったことも含めて、いろいろなことを改めて理解することができました。高齢者のイメージは、身体の様々な機能の低下という悪いことが出てきます。今回の講師の中嶋先生が介護職員をしている時に、高齢者の方が「今日は元気ないなあ」や、「今日は元気やなあ」と声をかけられて意外と観察されているのだと感じて、救われたことがあるとおっしゃっていました。高齢者の方々は、私達にとって人生の大先輩であり敬うべき存在だということに気付きました。また、身体の様々な機能が低下していくというのも事実だから、そんな高齢者の方々を介護している介護福祉士さんたちはすごく大切で必要だということがわかりました。今までは自分に関係ないと思っていましたが、今回の講義で興味をもつことができました。

今回は福祉や高齢者の方々のことについて詳しく学ぶことができました。高齢者施設での実習をとても楽しみにしていたので、それがなくなってしまったのは本当に残念でしたが、高齢者についてのいろいろな話聞くことができたので良かったです。私の将来の夢は保育士ですが、小さい頃から高齢者の方や祖父・祖母と触れ合う機会が多く、大好きでした。だから何度か介護福祉士になろうと考えたことがありました。今回の授業で、高齢者の方の話を聞き、DVDを見たことで、高齢者について深く学ぶことができ、介護福祉士さんの仕事を見ることができたので、とても自分のためになり、また高齢者についての知識が増えました。今回の講師の先生は、大きな声でゆっくりとわかりやすく丁寧に話してくれたので、聞きやすく頭に入ってきました。さすが介護福祉士さんだと圧倒されました。やはり人と関わる仕事は、誰かの笑顔とありがとうの言葉で、やりがいを感じるということが改めてわかりました。

7月7日(火)

「高齢者施設見学」

担 当:桃寿園, 松風園
施設職員

新型コロナウイルスのため、中止

◎ 7月20日(火)

「心肺蘇生講習会」

担 当:伊丹市消防局署員

新型コロナウイルスのため、中止

◎ 7月8日(木)

「校外学習事前学習」

担 当:本校教員

・8月30日(月)実施の校外学習(森ノ宮医療大学)に関する説明等を行った。

◎ 8月30日(月)

「森ノ宮医療大学
施設見学及び体験学習」

担 当:森ノ宮医療大学

新型コロナウイルスの緊急事態宣言のため、中止

◎ 9月2日(木)

「校外学習事後学習」

担 当:本校教員

森ノ宮医療大学見学の事後学習を行う予定でしたが、施設見学ができなかったため、中止

◎ 9月30日(木)

「オリエンテーション」
「校外学習事前学習」

担 当:本校教員

- ・ヒューマン類型に後期より加わる生徒を含めての今後のあり方等について説明等を行った。
- ・学年主任からのお話
- ・2学期最初の校外学習(10月20日実施:大手前大学国際看護学部)に関する説明等を行った。

◎ 10月20日(水)

「大手前大学国際看護学部
施設見学及び体験学習」

担 当: 大手前大学国際看護学部

前田 勇子先生

◇学部紹介

◇看護師の仕事について

◇施設見学

◇体験実習

《講義の様子》



《生徒の感想》

今回の校外学習で看護師の仕事内容について詳しく知ることができました。私は看護師を目指しているので、とてもためになりました。大手前大学はとてもきれいで設備も充実していました。病院にあるような道具や器械もあり、触って見ることができて、とても貴重な体験になりました。印象に残ったことは赤ちゃんの人形が本物の赤ちゃんが泣いているように設定できることができ、驚きました。また、本物の聴診器や血圧計にも実際に触れることができ、貴重な体験ができました。

初めての施設見学はとても良い経験になりました。講義では新型コロナによる医療の変化を知ることができました。会話でのコミュニケーションも難しい中、より患者さんのことを知ることは大変だと思いました。他にも看護師には専門看護師や認定看護師があり、いろいろな分野があることを知りました。看護の道は幅広く、どんな分野をよく調べ、将来どんな看護に関わりたいかを考えたいです。施設見学では看護の学校の設備やどんな授業をしているのかを知ることができました。体験授業では班員と脳梗塞の患者さんについて話し合いました。食べ物はどう変えたらいいのか、どんな手伝いをしたらいいのか、患者さんはどんな気持ちなのかなど、意見を共有することができました。

私が最も印象に残ったことは、脳梗塞の患者さんが食事をしている様子の動画です。この患者さんは手が思うように動かなくて、いかにも食べづらそうな感じでした。私は、食べさせてあげればいいのかと、考えていました。しかし、この考え方は少し間違っていて、自分の力で食べられるように少しだけお手伝いをする、つまり、困っていること全てを助けるのではなく、患者さんがいつ通常の生活に戻っても大丈夫なように支援するということが看護でのやり方なのです。確かに病気がある程度治り、普段通りの生活をいざしようと思ったとしても、入院中に手伝ってもらってばかりでいたら、退院後も誰かに食べさせてもらわなければならないかもしれないので、「支援する」ということの大事さに気付くことができました。看護では身体だけを看ているだけではなく、身体的・心理的・社会的の3つの側面から患者さんを看ており、患者さんに何をしてあげたらいいのか、何がベストなのかを考えることが一番大切だと、仰っていた言葉が今でも印象に残っています。

◎ 10月28日(木)

「校外学習事後学習」

担当:本校教員

・10月20日大手前大学国際看護学部の施設見学および体験学習について、各自が書いたレポートをもとに発表を行い、発表者の感想等をまとめた。

《生徒の感想》

大手前大学国際看護学部に行った感想などを11人の人から聞くことができ、私が気付くことができなかったことや、学べなかったことや、また共感できたことがたくさんありました。共感できたことはグループワークで自分の考えを共感できて相手の意見を知ることができたことです。また、患者さんの気持ちに寄り添うことです。この2つの大切さを改めて感じました。今回の体験学習で、国際看護が普通の看護と違うところです。海外の方が日本に来た際に、体調がすぐれないときや、倒れたときなどに、英語が話すことができたらすぐに対応ができるところが、大手前大学の魅力だと思いました。全員の感想を聞くことはできなかったですが、11人の貴重な意見を聞くことができ良かったと思いました。同じ夢をもった人が多くいることを初めて知ることができました。

11人の発表を聞いて皆に共通していると思ったことがあります。それは堂々としている上に、聞いている人が「もっとその大学について知りたい！」と誰もが聞こうと思うような話し方をされていて、本当に1回目の発表なのかな？と疑うほど上手でした。特に話し方が上手だと感じた人が2人いました。なぜなら、他の人は「大学でこういうことがわかりました」とか、「建物がきれいでした」など、感想を並べて話しているように思えたのですが、その2人は、初めに「一番印象に残ったことは」とか、「一番驚いたことは」という前置きをしてから、その内容について話をしていたため、この2人の話を聞いている時、「確かに私もここ驚いたな」とか、「この人はここが一番印象的だったんだ」とか、いろいろ感じることができ、発表を聞いていて楽しく書く手を止めて聞き入ってしまうような話し方でした。私も聞く人に興味をもってもらえるような話し方をしなければならぬと思いました。

私は今回スピーチをして、練習していた時より緊張して、つまったりしてしまいましたが、自分が伝えたいことを言葉にして相手の目を見ながら話すことができたので、悔いはありません。次からは緊張してもスラスラと言葉が出てくるように、もっと練習を重ねたいと思います。また、友だちのスピーチを聞いて自分にはない感想や、自分とは違った話し方で、良いところをたくさん見つけることができました。スピーチを聞いて自分と同じ夢をもっている友だちがどんなところに興味をもって、どんなところに着目して校外学習に行ったかなど、共感する部分も多くあり、考え方を深めることができました。

今回の事後学習で施設見学のことについて考えることができました。皆のスピーチを聞いて私には語彙力や伝える力がないと感じました。また私は原稿を見ながら話してしまい、周囲の人に視線を配ることができませんでした。次回ではこのことに気をつけて行いたいと思いました。いろいろな方のスピーチを聞いて、見学に行ったときに気付かなかったことに気付くことができました。また、将来の夢やこれから努力していきたいことについて話している人が多かったので、私も将来どのような看護師になりたいか考えることができました。これから社会に出たらプレゼンテーションやレポートを書く機会が増えると思うので、人前で話したり、書くスキルを身に付けたりしていきたいと思います。

発表が上手な人は、大学見学のときの記憶と重ねながら聞くと、確かにそこは大事だなとか、自分もそれは忘れたらいけないとかを考えられたので楽しかったです。私が見学のときにわからなかったけど質問できなかった内容も、わかりやすく発表していた人がいて、理解できて良かったと思いました。発表が上手な人は堂々と前を向っていて、原稿を見なくても完璧にスラスラと話していて凄いと思いました。発表する機会がきたら、その人のように発表できるように頑張りたいと思いました。そのために、施設見学した時にメモをたくさんとったりするなど、準備を怠らないようにしたいと思います。

◎ 11月4日(木)

「管理栄養士の仕事について」

担当: 大手前大学 健康栄養学部

吉澤 みな子 先生

- ◇管理栄養士とは
- ◇管理栄養士がいる職場とは
- ◇資格取得について

≪講義の様子≫



≪生徒の感想≫

この講義を通して管理栄養士、栄養士の仕事内容について詳しく知ることができました。私のまわりに管理栄養士や栄養士の人がいないので、いろいろ聞くことができて良かったです。管理栄養士の仕事は給食の献立考えて作るイメージがありましたが、それ以外にも栄養指導や栄養相談など様々な仕事があり驚きました。ドラッグストアでサプリメントの説明や相談を行っているのも管理栄養士の方だと知った時、身の回りにたくさんいて、お世話になっているのだなと思いました。栄養士の資格は栄養士養成施設を卒業したら取得でき、管理栄養士の資格は国家試験を受け合格したら免許を取得できるなど大きな違いを知ることができました。大手前大学の卒業研究で、エノキダケを2時間太陽で干すとビタミンDができると聞いて驚きました。エノキダケを食べるだけで、ある程度のビタミンDをとることができるので、私もやってみようと思いました。管理栄養士も、私の将来の夢の看護師ともつながっていると思いました。どの職業にも、日々の勉強が大切だということがわかりました。

管理栄養士に初めあまり興味をもっていなかったのですが、今回の講義を聞いてとても興味をもちました。想像していた仕事内容は給食室にいる方や栄養バランスなどを教えてくれる方だと思っていましたが、全然違って食育やメニュー開発や病気予防をしていました。そして、糖尿病という病気がとても危険なものだということを知りました。失明になったり、身体が機能しなくなり足を切断したりするなど、とても怖い病気でした。食べる順番を変えて、“野菜→メインディッシュ→お米などの順(ベジファスト)”で食べるだけで病気予防につながるということを知りました。私も食習慣に気をつけていこうと改めて感じることができました。管理栄養士のやりがいはそれぞれ働く場所で感じることは違いますが、それぞれ多くのやりがいを感じる事ができるみたいなので、将来の夢の候補として管理栄養士をいれることができました。

管理栄養士の講義を受けて、もともと管理栄養士という仕事に興味をもっていたので様々なことを知ることができて、とても勉強になりました。特に栄養士と管理栄養士の違いについて気になっていたのので、知ることができて良かったです。管理栄養士の仕事は主に5つありましたが、私は病院で患者さんの治療に必要な栄養指導をするという仕事が一番気になりました。栄養士ではこの仕事ができないということもあり、管理栄養士にしかできないこの仕事に魅力を感じました。この仕事のやりがいについて、吉澤みな子先生は病院で働いていると患者さんが薬を使わなくても管理栄養士だけで病気が治ることがあり、その時にやりがいを感じたり、スポーツ選手のもとで働いている方は大会や試合で優勝したりと、結果を残してくれるとやりがいを感じると教えてくださいました。この講義を通して、栄養のことに今まで以上に興味をもつことができました。

◎ 11月11(木)

「ふれあい遊び」

担 当:伊丹市子育て支援センター

山崎先生・湯徳先生

◇子育て支援について

◇今の親子の状況

◇ふれあい遊び

《講義の様子》



《生徒の感想》

この講義を受けられて、とても良かったと思いました。手遊びをしてペアの子と仲良くなることができ、おもちゃを作る時には班の子とも仲良くなりました。初めての子がたくさんいて最初は不安でしたが、交流を通して不安が消えました。こんな感じでお母さん同士も不安が無くなっていくのだろうと思いました。お母さん達は1つの小さな命を育てていくから、不安がたくさんあるのだろうと思います。それを相談できる人や場所があることは大きな支えになっているのだと思いました。自分の将来を考えると、こういう場所がなくなってほしくないし、むしろ増えてほしいと感じました。将来子ども達を預かる仕事に就きたいので、お母さん方に安心して預けてもらえるような先生になりたいです。

今回の講義で一番印象に残っているのは、皆で作った動くおもちゃを作ったことです。ただ、おもちゃを作ったこと楽しかったのではなく、みんなで活動することの楽しさに気づかされたからです。初め1人で遊んでいた時は「凄い」と感動したくらいでしたが、皆一緒に飛ばしてみるとみんな自然と笑顔になっていたことを今でも覚えています。まだ子育ての大変さについてはわかりませんが、もし私が子育てをしたら一番辛いと感じるのは、“1人で子育てをしている”と感じることだと思います。しかし、こういった子育て支援センターがあることによって、親同士が相談し合い子育ての楽しさを改めて感じることができる環境があるということは、とても良いことだと思います。

今まで「子育て支援センター」という言葉は聞いたことはありましたが、どんな活動をしているのか全く知りませんでした。子どもと関わることができる場所は、保育所や幼稚園だけだと思っていました。子育て支援センターでは、おしゃべりしたり、遊んだり、子育てについての悩み事を相談できたりと、両親や子育てをしている人たちにとっては、とても安心できる場所だと思いました。このことを通してお母さん同士が仲良くなったり、子ども達は他の子どもと接することで今までできなかったことができたり、様々なことに挑戦したりと、どちらにとっても良い刺激になるのだと思いました。牛乳パックのおもちゃで実際に遊びました。輪ゴムをつけただけなのに、こんなに楽しめるのだと驚きました。子ども達にとって“遊び”はとても大切なものだと思います。

◎ 11月18日(木)

「校外学習事前学習」

担 当:本校教員

・12月9日(木)実施の校外学習(聖和短期大学)に関する説明等を行った。

◎ 12月9日(木)

「聖和短期大学幼児教育保育学科
施設見学及び体験学習」

担 当: 聖和短期大学
川北 貴也, 大北 理津子 先生

◇幼児教育保育学科概要

・取得資格・カリキュラムについて

◇模擬授業受講

◇施設見学

≪講義の様子≫



≪生徒の感想≫

今回、聖和短期大学保育科に行き学んだことがたくさんありました。子どものことについて、保育士になるために必要なことを学びました。最も印象強かったのは、「子どもは言葉を食べる」という言葉です。子どもは周りの環境などをよく吸収するという意味があるということです。親が言ったこと周りで話していることが、子どもには大きな影響を与えるということを知りました。

高校入学後、進路先を初めて考えた時、いろいろ調べた結果一番行きたいと思ったのが、聖和短期大学でした。だから、今回の校外学習を非常に楽しみにしていました。まず大学に入った時とても驚きました。たくさん自然に囲まれ、子どもの声も聞こえ、保育者になるには適切な環境だということを実感しました。また、施設でも「リブラ」というホワイトボードを使って生徒同士で教え合いのできる学習室や、おもちゃの部屋など、工夫されている施設に圧倒されました。

今回の講義で、子どもと話す時には「どんな言葉を遣うか」、「どんな風に言うか」ということが大切だということがわかりました。「どんな言葉を遣うか」というのは、子どもは言葉を食べるように言葉を獲得し覚えていくため、子どもにかけられる言葉には十分気をつけること、例えば「可愛い」だけではなく「これのこんなところが綺麗だね」など具体的な言葉を遣うように心がけているそうです。「どんな風に言うか」では、上から見下ろすように子どもと話さず、子どもと目線を合わせて話せば、子どもは暖かさや安心できる感じになるそうです。これは保育に限らず、看護や介護の対人援助の仕事にも同じことが言えるということです。

保育の仕事はただ子どもの面倒を見たり、世話をしたりするだけというイメージしかありませんでした。しかし、今回の大学見学を通して“保育の奥深さ”がわかりました。講義での言葉遊びは難しいというわけではなく簡単なものばかりでしたが、子どもはこういう何気ない遊びの「おもしろい」、「楽しい」の中に言葉の学びがあるということがわかりました。私たちも話せることが当たり前のように話していますが、生まれてすぐに話せるようになったのではなく、周りの大人達が話す言葉を吸収して、ここまで話せるようになったのだと思うと、子どもはただ遊んでいるだけではなく、常に何か新しい発見をしたり覚えたりして、学び成長しているのだということを実感できました。

1月13日(木)

「校外学習事後学習」

担当:本校教員

・12月9日聖和短期大学保育学科の校外学習について、各自が書いたレポートをもとに発表を行い、発表者の感想等をまとめた。

《講義の様子》



《生徒の感想》

聖和短期大学での施設見学の発表を聞いて、私が気付いていなかったことに気付かされたり、保育を目指す人達がどんなところに目をつけていたりしているのかを知ることができました。実際に自分が実習すると考えて、その環境が実習に役立つのか、その経験が将来につながるのかをしっかりと考えていました。他にも、通学の距離や時間、取得したい免許を意識しながら大学を見学していました。私も大学を見学する時、そういう意識を持って見学したいと思います。保育も人対人の仕事なので、看護の仕事にもつながる部分があり、とくに話し方については自分も気をつけたいと思いました。話し方だけでなく、相手に伝わりやすいようにするには語彙力が足りてないと思うので、努力したいと思います。

今回みんなの発表を聴いて、大切だと思ったことは2つあります。1つ目は文章内に自分の意見をしっかりと書くということです。当たり前のことですが、自分の意見を書けていないと、文章の内容の深さが大きく変わると感じることができたからです。2つ目は自分が知っている言葉の数を増やすということです。自分の知っている言葉の数が増えることで、より聞き手に伝わりやすい文章を書くことができると思います。そのためには、本や新聞を読んで言葉の知識を増やしていくことが大切であり、言葉の数を増やす最大の近道だと思うので、積極的に本や新聞を読んでいこうと思います。

今回の聖和短期大学見学の発表を聞いて、同じ場所や物を見ても、人それぞれ感じたことや印象に残っていることが違うことがわかりました。大学見学から少し時間が過ぎてから他の人達の発表を聞いて、私はこの時こう思ったなあと、そういえばこんなこともあったなあと、思い出することができました。保育士は子どもと話す時は、立ったままでは威圧感を与えてしまうから、しゃがんで話して安心感を抱かせるというのを思い出しました。今回発表した人達に保育士を将来の夢にしている人が多かったけれど、大学見学で学んだことは保育関係以外でも使える知識だと思います。目線を合わせて話すことは看護師や接客業などの対人の職場でも使えることだと思います。

今回私は発表をしたのですが、自分が人前で話すことに緊張する性格だとわかりました。前もって話す内容を考えたり覚えたりしていたのにも関わらず、やはり緊張が勝ってしまい何度も原稿を見て話をしてしまったことは、準備不足だったかなと後悔しました。他の人の感想を聞いて、こんなことを思っていたのだなとか、そんな考えもあるんだなとか、たくさん学ぶところがありました。私が聞きやすかったと思った人の発表は、具体的かつ簡潔に話をしている上に、今回学んだことほぼ全てをしっかりと2分程度にまとめられていて、話上手で聞き入ってしまうほどでした。制限時間内に自分が学んだことを、よりわかりやすく聞いている人に伝えられるかということが一番大事なことだと思います。

◎ 1月20日(木)

「1年のまとめと来年度に向けて」

担 当:本校教員

・1年を振り返った感想とアンケートの記入を行った。また、来年度の概要について説明を行った。

《1年間の反省・感想・印象に残ったこと》

私の1年間の反省は、もっと自分から積極的に発言・行動すればよかったと思いました。講義をしていた先生が「質問ありますか?」とおっしゃってくれても発言できなかったのが、来年はもっと自分から発言・行動したいと思いました。初めは女子しかいなくて怖いとか仲良くなれないのではないかと感じていましたが、皆優しくて毎週木曜日が楽しみになっていました。いい人達に囲まれてヒューマンの授業を受けられて良かったです。印象に残っているのは大手前大学の施設見学です。看護師に必要なスキルや看護師の細かい仕事内容などいろいろなことを聞いて良い機会になりました。

私は入学前からこの総合ヒューマン類型の講義をとっても楽しみにしていました。最初は28人で周りを見渡しても話せる人は数人しかいませんでした。しかし、一緒に講座を受けたり、班活動をしたりして、今では皆と話せるようになりました。2学期になって、7人増えて35人になりましたが、その7人とも大学の施設見学に行つて仲が深まりました。新型コロナの影響で大学見学や、老人介護施設見学に行けませんでした。他の講座が充実していたので良かったです。特に印象に残っているのは大手前大学国際看護学部の施設見学です。もっと、大手前大学のことを知りたいと思いました。

入学当初は不安と緊張で、心臓が飛び出そうなほどドキドキしていました。大学の先生の話の聞いたり、大学見学に行ったりして、総合ヒューマン類型でしか受けることができない授業に、今はドキドキよりワクワクしています。反省としては特別講座の全てに参加できなかったことです。体調不良で欠席や早退が増えたからです。2年生からは体調管理をしっかりして、将来の夢に向けてたくさんの勉強をしたいと思っています。

特別講座や施設見学で同じ仲間と長い時間を過ごして、仲の良い友人ができました。まだ話したことのない人もいますが、今後同じような夢をもつ仲間と共に将来の夢に向けて頑張っていきたいと思いました。総合ヒューマン類型で、自分の興味のある分野や、それ以外の分野についても特別講座を受けることができ、私自身の視野も広がりました。

最初の講義が終わって思ったことはレポートの行数が多かったことです。最後の行まで書くように言われて一生懸命書く内容を考えていました。しかし、今では以前ほど苦ではなくなってきました。また、漢字のミスに注意するようになりました。この1年でレポートが書けるようになったことに私自身も驚いています。総合ヒューマン類型には看護・医療・福祉・保育などの分野があるため自分の興味のない分野の講義を受けなくてはならないが、最初は関心もなく何となく聞いていたけれど、よく聞くと他の分野にも関係しているものが意外にも多く、普段の生活でも役立つことがありました。

総合ヒューマン類型に入学して良かったと思ったことは主に2つあります。1つ目は看護・医療・保育・福祉に携わる方々から講義をしていただいて、現場で働いたことのある人にしかわからないようなお話を聞くことができたということです。2つ目は実際に大学に行かせていただき、とても進路をイメージしやすい環境が整っているということです。そのおかげで私は看護・医療・保育・福祉に対する興味を入学当初より深めることができました。新型コロナの影響で例年通りにいかない部分があったのは残念でしたが、本当に良い経験をさせていただいたと思います。

初めての授業はどんな雰囲気で行うのかと緊張しながら教室に入ったのを覚えています。いろいろな大学・学部から来ていただいた先生から多くのことを学ぶことができました。なりたい職業についてのこと、あまり知らない職業についてのことなど、興味をもつものばかりでした。印象に残っているのは大学の施設見学です。様々な大学・学部に行つて、実際に見たり、触れたりとても貴重な時間でした。とても楽しく、視野を広げることができました。

《来年度に向けての意気込み》

来年はこれまでより実習や授業がとて増えます。苦手なことでも自分なりに頑張って取り組んでいきたいと思います。事後学習の発表でわかった反省を直せるようにしていきたいです。また、文章を書くことに慣れるようにしていきたいです。そして、受験のために少しでもできることを増やしていきたいと思います。

来年度は興味や関心をいろいろな分野に広げていきたいです。また、今より文章力をつけたいので、1ヶ月に1冊は本を読みたいです。そして、今よりもっと深くいろんな分野を知ることができるようになり、興味をもつことができたいです。

来年度からは同じ夢や進路を考えている35人と同じクラスになるので、将来のことについて意見や悩みを相談できるような関係になりたいです。また、「ヒューマン基礎」や「生活探究」という科目を習うので、より一層知識を増やしていきたいです。

来年度からはヒューマンの授業がもっと増え、看護の仕事を幅広く学ぶことができると思うので、非常に楽しみにしています。私が看護の仕事に就くには、足りない部分ばかりなので、自信をもって目指していけるようにコミュニケーション能力・理解力・積極性を身に付けていきたいと思っています。

看護師を目指しているので、看護の勉強を中心に保育や福祉の勉強もたくさんしようと思います。将来は看護師をしながら、自分の生活に役に立つような資格をとりたいため栄養士の勉強もしたいと思います。自分の体調管理がうまくできていないので、体調管理に気をつけて2年生からも頑張っていきたいです。

この総合ヒューマン類型で多くの友人とも出会えて、様々なことを学びましたが、来年度からはクラスもそのメンバーになるので、みんなで共に成長していきたいです。また、将来の夢についても、もっと明確にし、目標を立て、自分の望む進路を実現できるように勉強に力を入れて取り組んでいきたいです。

講義の後に質問する時間で、聞きたいことがあっても積極的に聞くことができませんでした。だから、来年度からはみんなの前でも堂々と話すことができるようになりたいです。また、テスト前に前回のテストがあまり良くなかったから、次は頑張ろうと思っていてもなかなか行動に移せなくて、テストの点数を見て後悔したから、2年生からは頑張ろうと思ったことはきちんと行動できるようになりたいです。

これから2年生へ上がり、様々な経験をしていく中でも、恵まれた環境にいることへの感謝の気持ちを忘れずに、一生懸命取り組んでいこうと思います。また、1年生で学んだ視野を広げて物事を考えることを大切にして、勉強面ではもちろんですが、人としても成長できるように多くの知識を身に付けていきたいです。
